

# 松戸市子どもの未来応援会議での主な意見等一覧

資料1

## 1 主な意見

### (1) 子どもの未来を松戸市全体で応援について

子どもたちが、こぼれにくい地域づくりが必要。次に、それでも、どうしてもこぼれてしまう子どもはいるので、その子どもを発見することにつなげる必要がある。

こぼれにくい地域づくりとして、声かけなど、いろんな人が接点を持てるようなことが必要。

こぼれにくい地域づくりとして、すべての人が担い手になれるのだということを示してほしい。

住民と行政の協働による支援も必要、そのためには住民の解決力の向上も必要。

家庭で支えられないところは地域や松戸市全体で支える。役所が支援することと、住民の方が支援できることについて、大きな方向性を示しながら事業を整理する。

住民に新たな力を発揮してもらうためには、活動していけるような事例の一覧が必要。

高齢者と子どもが関わることで、高齢者にとっては介護予防になる。子どもは、高齢者からいろいろな経験を伝えられて、健やかに成長していける。多世代交流拠点づくりという視点が必要。

経済的困窮者は経済的に自立していないかもしれないが、それ以外の面では自立した1人の個人なので、応援する側に回る仕組みや視点が大事である。

### (2) 子どもの居場所について

すべての子どもが松戸市の中でなんらかの居場所を見出せることが必要である。家庭が居場所になる人はそれで良い、そうならない人については、松戸市として作っていく必要がある。居場所には、学習、食事、寝場所という基礎的なインフラ、それに体験が重要。また、きちんと向き合ってくれる大人という時間が持てる、適切にトラブル対応するといった4つが必要。

### (3) 人材育成について

松戸市は児童館が1カ所しかなく、子どもの居場所としても数カ所しかない。小学生から高校生あるいは20歳ぐらいまでの青少年や保護者に実際に対応する職員の人材育成を行ってほしい。

松戸市子育て世帯生活実態調査分析結果は、全国の調査ではなく松戸市のデータであるので、保育士、教員、スクールソーシャルワーカー、児童相談所、市職員など現場の職員にリアルにわかってもらうチャンスであると思う。また、困りごとを抱える方への関わり方などを考える、変えるチャンスとなるので、来年度に分析結果を踏まえた研修会を行ってほしい。

#### (4) 相談業務(窓口)について

ひとり親の悩みの相談相手が、多い順に友人・知人、家族・親戚、相談相手はいない、となっており相談機関につながっていない可能性が高いと思われるので非常に気になる。

困りごとがあって相談に来てくれる人は良いが、来てくれない人のサインに気づくには、関わる人を増やす必要がある。

福祉部門の施策の多くが、すでに既存の国の枠組みの中で進めていると思うが、現実には、漏れてしまっている子どもや受給要件に合わない子どもたちがいる。また、子どもの貧困率は国の推計では13.9パーセントなので、その中にはいろんな子ども達がいるし、高校生がおちてしまうこともある。

相談窓口についてまだ足りないのではないか、例えば、子育て世代包括支援センターなど3カ所あるが、もっと増やしてもよいのではという気がする。

多子世帯の家庭の困りごとなどに対応できるよう守備範囲を就学前から就学後までに広げた相談窓口が必要。

#### (5) 外国人への支援について

これから多くの外国の方が日本に住む時代になってくるので、日本人だけではなくて、いろんな人たちが分かち合う、共有しあうという社会が子どもの未来にとって非常に重要ではないか。今後、外国人への支援が必要である。

#### (6) ひとり親への支援について

離婚後に貧困という状態に陥るのを極力なくしたい。一度貧困に陥ると、なかなか抜け出せず、もう1回出直すには大変なエネルギーが必要になるので、離婚した時に集中的に支援する必要がある。

離婚直後に行政等の支援に結び付かなかった場合や期待したものが得られなかった場合に、孤立してしまう。

ひとり親家庭の母親は非正規として働いている方が多いので、収入が低い。そのため子育てをする上で様々な困難に直面するので、世帯の収入を上げていくことが必要である。

子どもが小さいときは、子どもと一緒にいる時間を優先したいので近隣で短時間で働く。その後、子どもが大きくなり、教育費などが必要な時期になってからスキルアップを考えても、年齢や体力等の問題がネックとなり難しい。そのため、子どもが小学2、3年生ぐらいの時に、スキルアップを考えましよう働きかけているので、ワークライフバランスがとれるような就労の支援が必要である。また、ライフプランとして、どのような支援が必要なのかというイメージがはっきりしてくると良い。また保護者に収入があれば、ある程度問題はご家庭で解決できるようになると思う。ただし、障害があったり、うつ状態など困難を抱えているご家庭には、行政や地域の支援は必要である。

個人情報を守られていないといった相談がある。地域での見守りや気づきは重要であるが、どんな場面でも個人の尊厳を守ることが必要である。支援につなげるのは良いが、個人情報はどのように守られるのかということをきちんとお伝えしておかないと、かえって孤立化してしまう方もいる。地域づくりの視点に入れてほしい。

## (7) 健診等について

予防接種を受けていないお子さんは問題を抱えている家庭が多いと感じる。予防接種を受けていないお母さんたちは、働いていて非常に忙しいなど様々な原因があるのではないかと。予防接種を受けていないお子さんのお母さんたちは、実際いろんな面で生活的に困窮していると現場からはみえている。なので、健診については、時間をずらして設定し、周知方法としては、電話ではなくメールを使うとか、今までと違ったやり方で情報を発信することも必要である。

母子手帳をもらうと妊婦健診の無料化などがあるが、1回目は初診料を払い病院へ行って妊娠の診断が出ないと母子手帳が貰えないとなると、2万円くらいの経費が発生するので母子手帳をもらいに行けないことがある。

ひとり親世帯は、母子・父子ともに、予防接種などの接種率が低い。この状況を解決するためには、母子家庭や父子家庭に対して、かかりつけ医の日常診察での親身な見守り・ケアが重要である。また、出産時の状況から、保健師などきめ細やかな取り組み必要であり、かかりつけ医の間で、情報共有も必須であると考えられる。この情報共有に際して、包括的な観点から、親子すこやかセンターが重要な位置づけとなる可能性がある。

子どもの夢を将来へつなげるといった視点から、健康面が重要である。乳幼児健診から学校での健診へと、つながっているのか。どこまで共有すべきかは個人情報などの問題があって難しい面もあるが、学校は子どもたちと接する機会が多いので、健康に関する面でどう協力していけるのか。また保健室の先生(養護教諭)、かかりつけ医等とどこまで連携していくのかという視点が必要である。また、今後、福祉面からの支援としてスクールソーシャルワーカーの配置などが重要である。

## (8) 学校現場での役割について

非常に多くの事業が列挙されているが、教育サイドが薄いという印象がある。学校の中での取り組みで学びという点が大変重要なので、福祉的サイドでやる学習支援だけではなく、学校の中でどういう取り組みをやるのか、もっと学校でどう取り組んでいくか、拡充させていく必要がある。

教育の機会均等を原則とする公教育では、全ての児童・生徒に対して等しく教育活動を行うということが大前提であり、義務教育の間に、塾などにも行かなくても、将来の進学につながる学力を身に着けるようにしていくことが重要である。そのために、スクールソーシャルワーカーの配置など、市全体としてバックアップしていく必要がある。

## (9) スクールソーシャルワーカーの取り組みについて

不登校、中退等、スクールソーシャルワーカーの配置によって対応できることがある。学校がプラットフォームになって、さまざまな子どもたちへの支援が展開されることが重要である。

スクールソーシャルワーカーの配置は効果があるのなら拡充すればいい。ある程度、数値化したものがあったらいい。

発見するという意味では学校は大きな場であるが、先生がすべてフォローするのは大変厳しい。中学校に限らず、可能であれば小学校も含めて、スクールソーシャルワーカーと学校の先生がタッグを組んで進めると良い。また、高校生以上をどうみるかという視点も大事だと感じた。発見する場としての学校というものを留意していきたい。

### (10) 就学援助費の手続きについて

就学援助費は、もう少し配慮が必要だと感じる。例えば、申請する子どもも申請しない子どもも、両方とも先生に提出するようにし、それを封筒に入れ外から見えないように回収すれば、誰が申請しているかわからないはずである。また申請もれをなくすことにつながる。

### (11) 市からの案内文について

「ひとり親家庭のしおり」については、児童扶養手当の説明は、もう少し親切な表現があるかと思う。当事者目線がすべての表現に足りない。就学援助も含め、すべての広報を当事者が見たらどう思うかという視点が必要。

### (12) 子どもの未来応援事業に関する表現方法について

松戸市子どもの未来応援事業一覧の中で、「経済的に困窮していると福祉サービスを提供します」というような書き方になっている。経済的に困窮というと、人それぞれイメージが違うと思うが、困窮していると言われることが市民にとってどんな感覚を持つのかということを考えると、「困りごとを抱えている」とかの表現の方が良い。

### (13) 松戸市への事業の要望について

国の「子どもの未来応援基金」のような基金が松戸市にほしい。松戸市版基金では、市への寄附金を元にして、運営は民間に託して「子どもの学習支援」「親への支援」「子どもと親への支援」について配分することが必要。

社会的養育ビジョンで謳われているとおり、松戸市が中心となって支援体制を構築してほしい。仕組みを作る際、緊急支援と中・長期的な支援に分けてもらいたい。例えば、軽度な精神障害、病気のため子どもを育てる力が低くなっている親のもとで育てている子どもへの支援、障害がある子どもの支援、児童養護施設等に入所していたが、途中で保護者のもとへ帰る子どもへの支援が必要である。特に緊急支援について3、4人のチームを作ってすぐに対応できるようにする必要がある。中・長期的な支援については、困りごとを抱えている家庭への訪問養育サービスみたいなものをつくってほしい。